第七歌　ファトン及リボンガオに於ける軍司令部の戰鬪及高階支隊の到着

一、軍司令官のファトン歸着

軍司令官はブラウエン作戰中止と共にオルモックに歸還の途につき途中山中の難路を突破しつつ又オルモック平地に於ては敵線を突破し既述の如く十三日二〇二〇無事ファトンに歸着せり

軍司令官に隨行せる軍參謀長は十四日ファトンに歸着し他の軍司令部職員は數組となり逐次歸還し其の半數は一月に入りバロンボン北方地區に軍司令部の撤退後到着せり

二、ファトン軍司令部米軍の攻擊を受く

十二月十四日頃よりオルモック、ーパレンシヤ街道西側地區を米軍は溯出して前進する情報ありしも此の地區は椰子林の密生せる大濕地帶なるを以て充分の注意をも指向せず又十五日パレンシヤ飛行場の守備隊が米兵と戰鬪中なりとの報告に接したるも米匪軍なるべし

1509

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

と判斷しありたり

然るに十二月十七日朝アアトン軍司令部は約二百の米軍の攻擊を受け司令部　兵之が防禦に任じたるも敵兵漸次增加しバレンシヤ、の交通路も遮斷せられんとするに至れるを以て正午前軍司令官以下リポンガオに脫出するに決し之を決行せり　此の戰鬪に依り將校以下十數名の死傷者を出せり

三、リポンガオに於ける軍司令部の戰鬪

軍司令部は十九日夕リポンガオより更にマタコブに轉進の豫定なりしも翌日一四〇〇頃より約三百名の米軍の攻擊を受け司令部徵兵、挺進第四聯隊の一部を以て交戰せるも死傷續出するの狀態に至れり當時恰も西方より進出せる高階支隊に收容せられてマタコブに移動せり

リポンガオ附近の戰鬪は約三時間繼續し此の間將校以下二十數名の死傷者を生じ又此の日同地にありし軍需品集積所は同時に攻擊を受け全部燒失又は奪取せられたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四 高階支隊のリボンガオ附近の戦闘

軍司令部は高階支隊の十二月十一日バロンボンに上陸せることを承知し爾の到着に伴ひ之をしてリボンガオ南北に據點を占領せしめ更に一隊オルモック奪回を策する如く豫想しありしが其の先遣大隊は漸く十七日夜リボンガオ軍司令部に到着せり

軍は先つ此の大隊を以てリボンガオよりバレンシヤ方面に攻撃せしめオルモック方面の部隊との交通を恢復せしむる企圖の下に前進を命じたるもリボンガオ南方約五粁に於て敵と遭遇し砲撃の爲多大の損害を受けて後退せり

高階支隊長は十八日軍司令部に到着せるを以て支隊主力はリボンガオに前進して先遣大隊に增加すべきを命じたるも部隊は十九日夕漸くリボンガオ附近に到着し適と敵圍中の軍司令部を收容せり

後後リボンガオ附近に於て同地に前進せる敵と交戰し多大の損害

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を受けてマタコブに退却せり

而して同地に残置しありし歩砲大隊、工兵、輜重中隊とを合し支隊は二十日以後同地附近を防衛して軍主力の敵容に任するに至れり

八款　米軍のアルベラ上陸より十二月中旬に至るレイテ島各方面の戦況及米軍のミンドロ島上陸

十二月七日の狀況

A 米軍のアルベラ上陸作戦

約一ヶ師團以下（77D）と剣部隊の米軍は本朝0又はD約三〇の掩護の下にH三〇—四〇上陸艦船約三〇を以てアルベラ附近に上陸を開始せり

正午頃上陸せる米軍はイピルを攻撃中にして上陸地附近には橋頭堡設定せられたり

我が陸海航空部隊はブラウエン作戦協力を中止し全力を以て此の

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

方面に對し攻勢を開始す

35A は 121S のマナカスナス增加を中止したるもツク附近に前進せし

B マナカスナス方面

第二大隊の米軍は 1D 砲兵陣地附近に進出せり

1D の戰力

各歩兵聯隊 約一大隊强

砲兵隊の戰力、第一大隊 各二門リーン高地

第二大隊 〃

第三大隊 八門 カタバラン山西麓

第四大隊 七門

1D 正面の米軍總兵力は歩兵七—八大隊

十糧以上の砲兵約三大隊なり

七一六高地には約一大隊の米軍あり

2D (一五〇名) は七一六高地西北方 (一一〇〇名) は東の西

1D 1BS

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

南方地區に於ける

十二月八日の戰況

A 落下傘部隊の攻撃

○六三〇～〇七三〇の間に於て落下傘部隊第一次、第二次約九〇名

はバレンシヤに降下せり

B ルピ方面に降下する米軍落下傘兵の降下

26D 主力のルピ、マホナグ附近に降し米軍落下傘兵約五〇降下せり

C オルモツク方面

上陸せる米軍は約二ケ聯隊なるもの如くイピル居留に橋頭堡を構

大中なり

目撃得る裝備は戰車八、十糎砲八、十五糎砲數門、迫擊砲十數門、

高射砲七～八門なり

S 12 はラマオ山マシバン山に約一中隊（三〇〇名）を配置し其の他を

南下せしめ其の先遣隊（二〇〇名 MG 二）は船舶工兵二ケ中隊と共に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

イピル附近の米軍と戦闘中なり

121Sの主力（五〇〇名迫砲二門速射砲四、榴弾砲九）は本夜半カルモックに到着の豫定なり

パレンシヤ飛行場附近は集成一中隊（一五〇名）及海軍飛行場部隊（二〇〇名）守備しあり

オルモックには35A司令部の一部滞留しあり部隊長以下當面の戦闘を指導す

D アルベラ方面

26Dの第二大隊はルビに在りアルベラ附近には歩兵一中、砲七門工兵三中隊計四〇〇名在り、又右側支隊（一大隊半、砲一門七〇〇名）はパラナス河北岸二八〇高地アルベラ東南五粁を確保してダムラアン方面の米軍に對しあり

26D司令部はマリトボに在りて此の狀況に鑑みブラウエン方面に對しては歩兵一大隊（一〇〇〇名）を派遣し主力をアルベラに集結せし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

るに決す

Ⅲ 35A 司令部主力はルビに在り

通信の狀況

マニラ―ルビ 35A 九日〇六〇〇より移動の爲閉鎖

マニラ―オルモック 良好

マニラ―オルモック 第一

マニラ―オルモック 第二 九日移動の爲閉鎖

十二月九日の狀況

A オルモック方面の狀況

〇六〇〇頃イピル附近の米軍主力（歩兵二大隊、他十數門、輕戰車

二アリゲーター六）は同方面を突破しオルモック南方二粁に進出し

1245 主力とオルモック南方周邊に於て激戰中なり

米軍 D 六糎砲射程を實施中なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

注　オルモック日本軍兵力

第一大隊（二中MG三　B1A二）　一〇〇名

第三大隊（三中MG九　B1A一　TA四）　二五〇名

同　121S

落下傘部隊　八〇名

船舶工兵隊　五〇〇名

ZOD の一部　六〇名

海軍　七五〇名

計　一、七四〇名

B 685 主力はパロンポンに向ひありし所海上にて米軍航空機の攻撃を受けレイテ島西北のサンイシドロに突入、上陸せり

その一部は九日早朝マナカスナスに向ひ前進せり

C ACD の二大隊（771）はパロンポンに上陸せるが如し

十二月十日の状況

A オルモック方面

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米軍は昨日より本日に亘り二一三大隊をイピル附近に強行上陸せし
めオルモックを攻撃中なり
〇八〇〇一一〇〇〇の間艦砲射撃と爆撃を實施し來れるも我が軍は之
を撃退し昨日の線を確保しあり
本道附近には敵車四を認む
B
落下傘部隊の七七名は本夕バレンシヤに降下し 121S 聯隊長の指揮に入
り直ちにオルモックへ前進せり
十二月十一日の狀況
6B 6B はサンイシドロに上陸を完了せり
B オルモック方面
米軍は一〇〇〇一一三〇〇追撃砲を以て猛烈なる射撃を實施しつつ
攻撃し來り一度之を撃退せしも正午過市街の一部は占領せられたり
B オルモックには多數の米軍戰車上陸しあり
121S 第一線の左翼は變化なしも右翼方面松井部隊正面に於てはオルモ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ツタ市街及其の西方地區に一部の米軍侵入せり

ラマオ山に砲撃せる大隊は一中隊を殲滅し主力を以て本十一日戰場に到着の豫定なり

落下傘部隊九九名バレンシヤに降下せり

C マナカスナス方面

米軍はIDのIE及57Eの陣地前縁を近圍し其の後方地區ハリモン附近及砲兵陣地附近に浸入せるものの如し

D 海軍陸戰隊オルモック上陸

海軍陸戰隊は二一三〇SB二隻に依りオルモック西方ナオ附近に上陸しナウンガン附近に集結隊形を準備中なり

オルモック南側の米軍砲兵の射撃を受けたるも損害は輕微なり

E 3E.A 司令部はオルモックに前進中

十二月十二日の狀況

マナカスナス方面

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米軍の我が陣地後方に潜入せる部隊に對し1Dはリモン砲兵陣地附近に及て掃蕩中なり

五五二高地は尚我が一部（1一中K八〇、TA）確保しあり

B ブラウエン方面

落下傘部隊及1GDの一部は尚ブラウエン南北サンハブロ飛行場に行動しありしものの如く戰況活潑ならず

C オルモック方面

戰況大なる變化なし

十二月十三日の狀況

A オルモック方面

121S當面の米軍は一一〇〇本道東側一帶の陣地に對し攻撃し來れるも之を撃退す

一〇三〇海岸陸隊は121S長の指揮に入れり

落下傘部隊六三名バレンシヤに降下せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（現在総計四四九名）

B ヤナカスナス方面

當面の米軍は依然攻撃続行中にして1Dは陣地に於て混戦中なり

C 102Dは5Aの歩兵一中隊（一〇〇名）を1Dに配属せり

D 20Dの一部（77i）の一大隊Mg一中Bi1一は十三日リボンガオに到著

及ラヤオ山方面変化なし

の豫定

E 米軍輸送船団の情勢

司令部報告に依れば十三日ミンダナオ湾を西進せる米船団はムルンエラコス湾に進入し其の一部は一三四〇同地に上陸せり

湾附近にB四、C一〇、D二〇、T二五在り

又別に西進する部隊あり

十二月十四日の状況

26D 主力はブラウエンより反轉しタリヤサン附近に進出中なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五本日より米軍機動部隊出撃し其の艦載機を以て全比島に対し攻撃を開始せり

六有力なる米輸送船団はスール海方面に前進中にして其の上陸企図は不明なり

七比島人の動向

比島人の親米傾向は戦況の進展と共に深化し其の一部は武装化して飛行場警備、交通妨害、諜報勤務等其の活動範囲を許さざるに至る

十二月十五日の状況

十三日ミンダナオ海に進入せる米輸送船団の主力約八〇隻は十四日スールー海を北進し十三日〇五三〇よりミンドロ島西海岸サンホセ、マンガリの間に上陸を開始せり

其の兵力は概ね一ケ師団と推定せらるる

サンホセ沖には巡二、B又はC五―六、D三〇―四〇、T五〇在り

大は盛砲射撃を實施中なり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二月十六日の狀況

Aミンドロ島には米軍引續き上陸しサンホセ附近に飛行場を設定中なり

我が守備部隊は兵力微弱にして反擊能力なし

第十四方面軍は第四航空軍と連絡しサンホセ附近海面の米輸送船團を攻擊するに決す

Bレイテ島オルモックの狀況

35Aは先つイピル附近の米軍橋頭堡擊滅に全力を傾倒することとし

左記部隊を以て之を擊滅せしむ

CD 771の771長指揮部隊（右翼隊）

771の三中、MG一中、Bi4四、Bi4一

12IS長の指揮する部隊（中央隊）

12IS長の八中、MG一中、Bi4二、P一中、落下傘部隊四〇〇、船舶工兵二〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、但し12IsDの戦力は1/2）

光井部隊（左側支隊）

〃 船舶工兵七〇〇、歩兵一中、MG三

當面の米軍兵力は

二〇〇〇―三〇〇〇、A三迫撃四其の他火砲一〇門以上戦車八にして其の一部はオルモック橋梁北方一粁に進出せり

C リモン方面

米軍は本道以西より攻撃し來り其の一部は師團司令部附近に進出す

1Dの戦力は1/2以下に低下す

102Dの戦力は各大隊共一五〇―二〇〇名あり

D 第102機動部隊は十四日より比島東方海面より十四日以降三日間比島全域に來襲す

十二月廿七日の戦況

A ミンドロ島

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

マンガリ灣沿岸に飛行場設定中なり

B我が落下傘部隊の殘餘は一九〇〇パゴロドに前進せり

十二月十八日の狀況

Aミンドロ島

サンホセ附近の飛行場を設定中にして既に一部を使用しあるものの如し

Bギウアン飛行場

司偵偵察に依れば米軍はサマール島東南ギウアンに飛行場を設定中なり

1D

司令部北側三〇〇米東西の線に陣線を整理せり

陸方

571 (12以下) 11 491 (14) 十糎砲六、十五糎砲五

十二月十九日の狀況

一八三

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

A オルモック方面

JDは兵力の損耗と火力の不足の爲右翼方面より逐次壓迫せられつつあり

當面の米軍は一ケ師團以下なり

B 26Dはタリヂサンに進出せるものの如し

C サマール島方面

約一大隊の米軍は比島人三〇〇と共にカタバロカンに上陸其の一部はカルバカ、ライトに進出せり

我が守備部隊はヒナバンガンに於て一應攻撃せるも其の後ガンダラ北方山地に於て遊撃戰に轉移せり

D 比島人の動向

比島人の行動は逐次活潑化し十九はバゴロド飛行場水源地襲撃せられたり

又ネグロス島に於ても逐次行動を開始す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二月二十日の狀況

A ミンドロ島

サンホセ飛行場は滑走路一九〇〇×四〇碎の他誘導路、掩体を認む

未だ飛行機著陸しあらず

B 102D 方面

陸線を改修中なり當面の米軍の行動活潑化す

C ブラウエン、サンバブロ、トロサには落下傘部隊其の他到着し活動中なるものの如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第九節　軍のバロンガン地區への輸送

第一款　第六十八旅團のサンイシドロ

一、サンイシドロ上陸の經緯

第六十八旅團は七日朝オルモックに上陸の豫定の所米軍の逆上陸の爲軍司令部に於ては其の行動を豫念しありしが十一日に至り第十四方面軍よりの通報に依り同旅團は輸送中空襲激しく護衛司令官の進路に依り九日よりサンイシドロに上陸せるを承知せり

旅團は上陸に方り空襲を受け輜重上陸を以て輸送せるも輜重も大半海没し苦心して輸送せる火砲二門も道路不良の爲サンイシドロに到着するか止むを得ざる狀況となり　部隊裝備共に優秀なり

し旅團も遂に其の戰力著しく低下するに至れり、然れども流石に訓練せる所に依り部隊砲二門を搬送して一部を以て九日主力を以て十一日頃第一師團の左翼方面に向ひ前進を開始せり

二、軍司令官の傳達

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍司令部に於ては同旅團に軍命令の徹底に努めたるも其の方法たく又旅團の先遣分隊は既にオルモックに到着し旅團司令部との無線連絡に努めたるも之も遂に達するに至らず止むを得ずバゴロドにあ第二飛行師團に依頼して空中投下に依ることとせるも之れも遂に不成功に終れり

三、旅團の戦闘参加

旅團は第一師團正面の戦況を考察しリモン附近進出に努力せるもサンイシドロよりオルピアンに達する本道は空襲とオルピアン方面よりの米軍長射程砲の射撃に依り前進を妨害せられ南方にある小道を前進せり　然るに此の間道は非常の悪路にして前進困難として捗らず十二月二十三日漸くリモン西南方地區に於て第一師團と連絡せり

當時第一師團は後退中にして治原之を收容して相共にピラバ方面に後退するに至れり

第二款　第一、第百二師團方面の戦況

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一、第一師團方面の狀況

十二月上、中旬に於ける第一師團方面の敵況は今期作戰の西蘭中止第六十八旅團の敵者西著の遲延の爲に益々敵況屈はしからず第百二師團方面よりの兵力轉用も遂に敵勢を沈靜するに至らず又十二月中旬方面軍より指示せられたるマナカスナス海岸に逆上陸の作戰も中止となり（第四章、第八節、第五款）十二月中旬末に於ては師團司令部を中心とする附近の防禦を漸く實施しある程度なり

二、第百二師團方面

第百二師團方面は第一師團に比すれば狀況は切迫しあらざるも師團の左翼第一師團との境界方面には敵兵浸入し來り爲に師團に於ては右方にありし第一六九大隊をピナ山方面に召致して左翼の破綻に備へるに至れり

第三款　軍の部隊命令

一、十二月十八日軍司令部に於てはレイテ島内各方面の敵況非なるを

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

判断し且米軍のミンドロ島上陸に伴ひ方面軍よりの増加兵力、軍需品の到着も希望する能はず現有兵力を以て自戦自活するの止むを得ざるに至るべきを以てバロンボン地区に撤退するに決し十九日リガンカオ軍司令部に第一、第百二師団の後衛を集め左記要旨の命令を下達せり

第三十五軍命令の要旨

一、軍はバロンボン地区に退却し自活自戦態勢を確立す

二、第一師団はマタコブ北方地区に後退

三、第百二師団はマタコブ南方地区に後退

四、撤退開始の時機は改めて命令するも命令の遵守せざる場合に於ては各兵団に於て適宜処理す

三、軍司令部の撤収と各部隊の編成

前項の命令内示を終れる午後軍司令部は米軍の攻撃を受くるに至り撤退開始の命令は遂に達せず各兵団に伝達するに至らず第一、第百二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

師團は敵軍の命令に基き自動進を開始するに至れり　十二月二十一日
軍司令部はコンピサオに至り更に各兵團に對し連絡將校を派遣しバ
グサンカハン河以西に後退する如く傳達する所ありしが早きは十二
月二十二日に又第十六、第二十六師團等には遅れて一月中旬頃に傳
達せられたり

第十四方面軍より持久自戒に關する訓令

十二月十九日頃軍は左記要旨の訓令を受領せり

一　第三十五軍司令官は其の作戦地域内に於て自活自給永久に抗戦を
継續し國軍將來に於ける反攻の支撐たるべし
尚にパコロド、カガヤン、ダバオ各航空基地群の確保に努め止むを
得ざるも敵の使用を妨害すべし
二　は茲に於て更に所要の命令を下達し36B及バロンゲンに在る高階方
面をして各兵團を次參せしめ遂次バロンゲン東北方カンダポット山
周邊に自活自戒の態勢を確立し爾後の作戦を準備せしむ

一九〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ラは十二月初旬よりオレモックの危險性に鑑み兵站線をバロンボン方面に變換し補給の確保に努めたるも軍需品の大部をリボンガホヤ附近に遺棄するの止むなきに至り且海上輸送の遮斷に依り目的を達することを得ざりき

第四款　高階支隊の收容陣地並に算内各兵団の集結狀況

一、マタコブ附近に於ける高階支隊の收容陣地

高階支隊は二十日リボンガホヤ附近に於ける陣地を二十一日部隊をマタコブ西北の地區に集結し爾後部隊の中核として收容陣地に任じたり

當面の敵は二十一日にバルマ附近に二十三日マタコブ附近に達したるも爾後高階支隊に對し攻撃を敢行することなく毎日砲撃に依り我が傷兵（二中隊）の損傷を期したる如く支隊は爾後三月頃まで同地附近の守備を完ふせり

三、算内諸部隊の參集及兵力集結の狀況

各部隊は何れも米軍の圧迫を受け敵中を突破して後退せるも軍司令官は幸に其の軍進目標を各隊に明確に示し得たるを以て部隊の所在に夫々の連絡はありしも遂に各部隊を掌握せり

各部隊の集結狀況左の如し

第六十八旅團は第一師團と共に後退中軍司令部より派遣せる連絡將校と十二月二十八日コンピサオより歌喜峰に移動中に連絡し一月初旬に至り軍命令に依るピラバ周邊の所命の地點に集結せり

當時の兵力は約四千にして轉進中先にピラバに到着し同地を占據せる敵を攻撃し或は追撃する敵を撃退し或はバルマの敵砲兵に斬込み之を破壊する等の戰闘を實施せり

第一師團は十二月二十日リバンガオより歸來せる參謀の報告に基き第百二師團と連絡の後二十一日夜襲進行動を開始しリバンガオ北方地區より西方に移動し序いで二十三日第六十八旅團との連絡成り之に收容せられて一月初旬ピラバ南方所命の集點に集結せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

當時師團の兵力は師團長以下約二千餘にして各部隊長は何れも第一師團に於て本道を横切り二十四日頃所命の地點たるマタコンガオ北側に於て本道を横切り二十一日頃進行動を開始したりボブ南方地區に集結を終了せるも軍司令部との連絡成らずピラバ附近の海岸に移動し年末を迎へたり

在せり

3 第百二師團は第一師團と連絡の上二十一日頃進行動を開始したりボブ南方地區に集結を終了せるも軍司令部との連絡成らずピラバ附近の海岸に移動し年末を迎へたり

當時の師團の兵力は約二千なり

4 今堀部隊（一二一S）は軍直轄將校より軍命令を受領し光井船舶隊、鎮遠第四聯隊、歩兵第七十七聯隊酒井部隊と共に一月上旬ナレモツク東北側地區を出發し一月中旬マタコブ南方地區に次いで二月初めカンギポット附近に到著せり

5 歩兵第七十七聯隊長は聯隊主部と護衛小隊とを以て鎮遠中部と衛突し護衛小隊とも別れ部下約二十名と共に鎮遠中歩兵第四十一聯隊に收容せられ同聯隊と共に一月初旬カンギポット附近に到著せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

6 第二十六師團は一月中旬アルベラ東北方山中に於て今坂部隊よりの連絡者に依り軍の撤退命令を承知し爾後退を開始し二月末カンギボット附近に到着司令官の掌握下に入れり

軍進途中バレンシヤ飛行場に於て米軍と交戰し師團長は戰傷死を遂げ參謀長亦負傷せり

7 第十六師團は二月中旬オルモック東北方地區に後退しバレンシヤ方地區よりボンカオ附近を經て撤退中二月二十三日軍司令部より派遣せる兵器敗殘兵と遭遇し爾後掌に依り三月中旬カンギボット附近に到達せり

當時の師團の兵力は極めて僅少にして師團長以下數百名なり

8 海軍陸戰隊は二月二十六日コンピヤス附近に於て司令官の掌握下に入れり

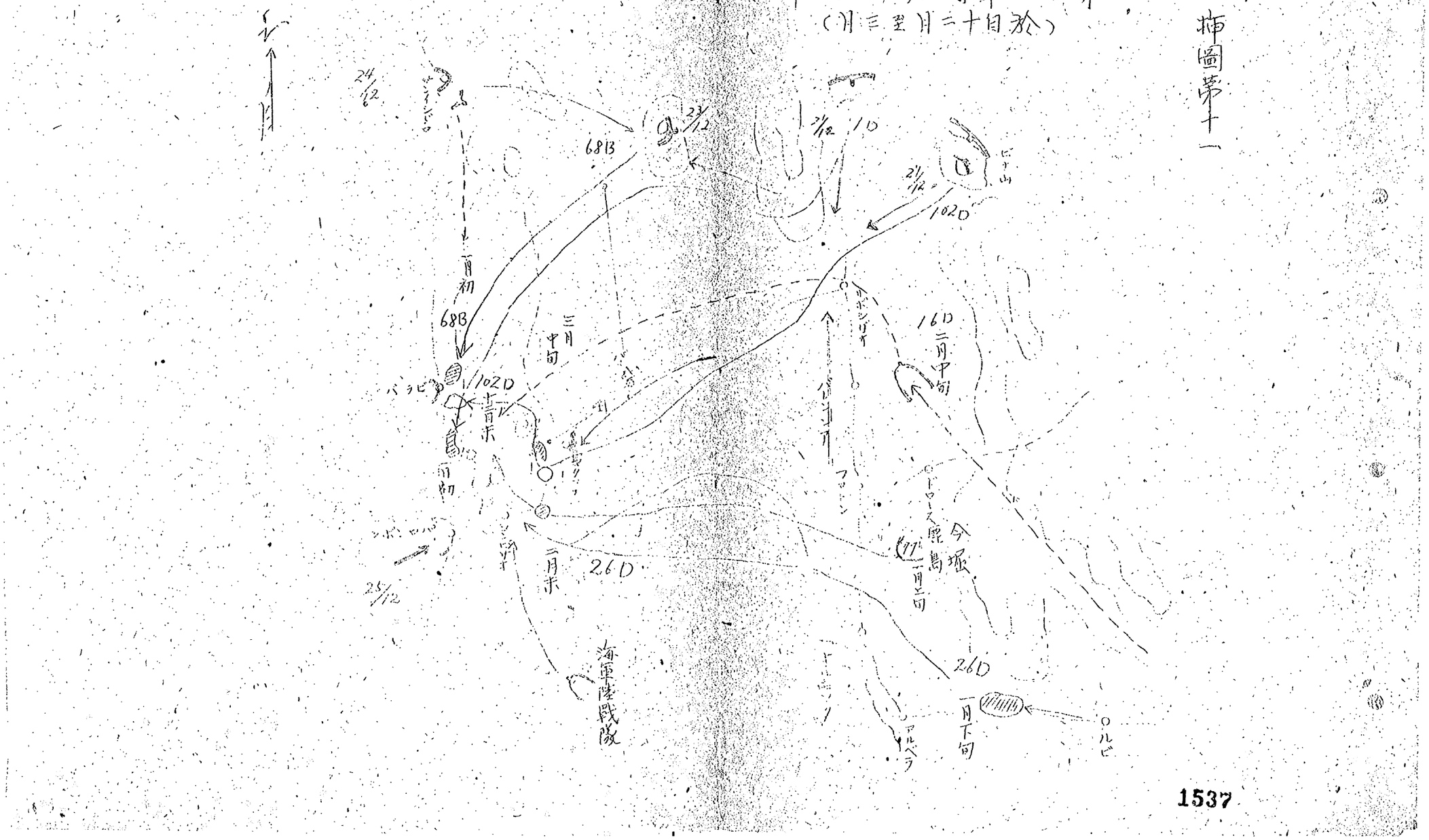
其の兵力は約二百名なり

9 各部隊の撤退の概況は第十一の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十三軍諸隊退却要圖

（昭三年二月二十日於）



第十一圖

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五款　十二月下旬に於けるレイテ島各方面の戰況

十二月二十一日の狀況

A　8D の 51 は十二月十九日以降オルモック方面より北上せる四、〇〇〇

一五、〇〇〇名の米軍とリボンガオ西方に於て交戰せるも成功せず、

該地附近を守備中なり

B　米軍重砲はバレンジヤ附近に進出す

C　1D との連絡杜絶す

十二月二十二―二十四日頃の狀況

軍司令部はコンヒサオを撤退す

第一、第百二師團は退却を開始す

十二月二十五―二十六日の狀況

A　二十五日米 77D の一部はパロンポンに上陸せり

該地の我が守備部隊は集成歩兵一大隊なり

B　68B は十二月九日サンインドロ出發サンタクレース―五一〇高地西側

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ーカブフン道をカブフン附近に進出しDを收容しつつ二十二日ハポク
ハポンを經てカンギポット山北方地區に轉進せり
高階支隊（51／8D）は南マタコブ附近陣地要點を確保し戰鬪中なり
當面の米軍はバレンシヤ、リボンガオを經て前面に在り

D ミンドロ島方面

米軍は既にサンホセ附近に飛行場二箇を完成せるものの如く島上に
本日一二五機を認む
陸海軍航空部隊は連續之を攻擊中なり
十二月二十七日より一九四四年末迄

A 十二月二十七日米軍の一部（一ケ聯隊戰車一二、を有す）は夜に海
空協同の下サンインドロに上陸せり
我が守備部隊（第十一輸送隊長の指揮する若干の海軍部隊、陸軍一
中隊）は之を邀擊戰鬪中なり

B 35A 指揮下各部隊はカンキポット山周邊に向ひ轉進中なり其の兵力左

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の如し。

部隊號	兵力	位置
1D	二五〇〇	カンギボット西南
102D	二二五〇	同　東南
68B	四〇〇〇	主力同　北方
77i	一八	一部サンインドロ
35A 通信隊	五〇〇	
5D	二〇〇	南マタゴブ
カモテス支隊	一二〇〇	バロンボン　西部
海軍伊藤部隊	二五〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

16D 26D はオルモツク東方を西進中のものの如し

35A 司令部はカンギボツト山南側山中に在り

D 十二月三十日一部の米軍ピリヤバに上陸す

第十節　軍の歓喜峰周邊地域に於ける自活自戦

第一款　軍の自活自戦計畫

一、軍の自活自戦計畫策定の經緯

イ、十二月二十六日頃軍は方面軍より電報を以て左記趣旨の命令を受領せり（第四章、第八節、第三款）

左記

一、第三十五軍は自今軍に於て自活自戦すべし

二、レイテにある軍隊を逐次レイテ島以外に輸送せしむべし

三、軍司令部は軍全般の指揮に適する位置に移動するを可とす

但し第二、第三項の電文は暗号化し居たるを以て解読に依る

軍司令部に於ては再電を要求せしも一向に到着せざりしを以

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

て十二月下旬軍參謀長をマニラに派遣せしも乘船は一月三日となり先づセブに到りバコロドを經て飛行機に依り一月末バギオ方面軍司令部に到着せり

右命令に基き軍司令部はバロンボンを背後連絡線としてマタコブ－バロンボン道西側地區に自活の地域を選定し軍司令部も一應コンビサオに定めたるも十二月二十五日敵兵バロンボンに上陸するに及び此の企圖を捨ててマタコブ－バロンボン道を避け本道北側の歡喜峰を中心とする地域に變更せり

2 歡喜峰とはカンキボット峰のことにして標高約三〇〇米の岩山にして此の附近に於ては珍らしく樹木密生して東及西に對し斷崖をなす天然の要害たると共に東はオルモック平地を一望に眺め西はセブ島に至る海上を望み得る地にして玆に某軍參謀の發案にて歡喜峰と名付けたり

此の地域は若干の民家もあり畑もあり海岸には椰子林あり鹽燒き

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

の家もあり永久抗戦には最適の地と考へられたり

二、一月初旬に於ける歓喜峠附近の作戦計畫

1. 第三十五軍の自活自戦の配備は別紙挿圖第十二の如し

2. 軍は當初其の集結し得る兵力を約一萬五千と豫想し此の附近に於て收集し或は耕作生産し得る物資を調査したる所約二週間の自活をなし得るのみと豫定せらるるに至りたるを以て第一師團等を島外に轉進せしむることとせり

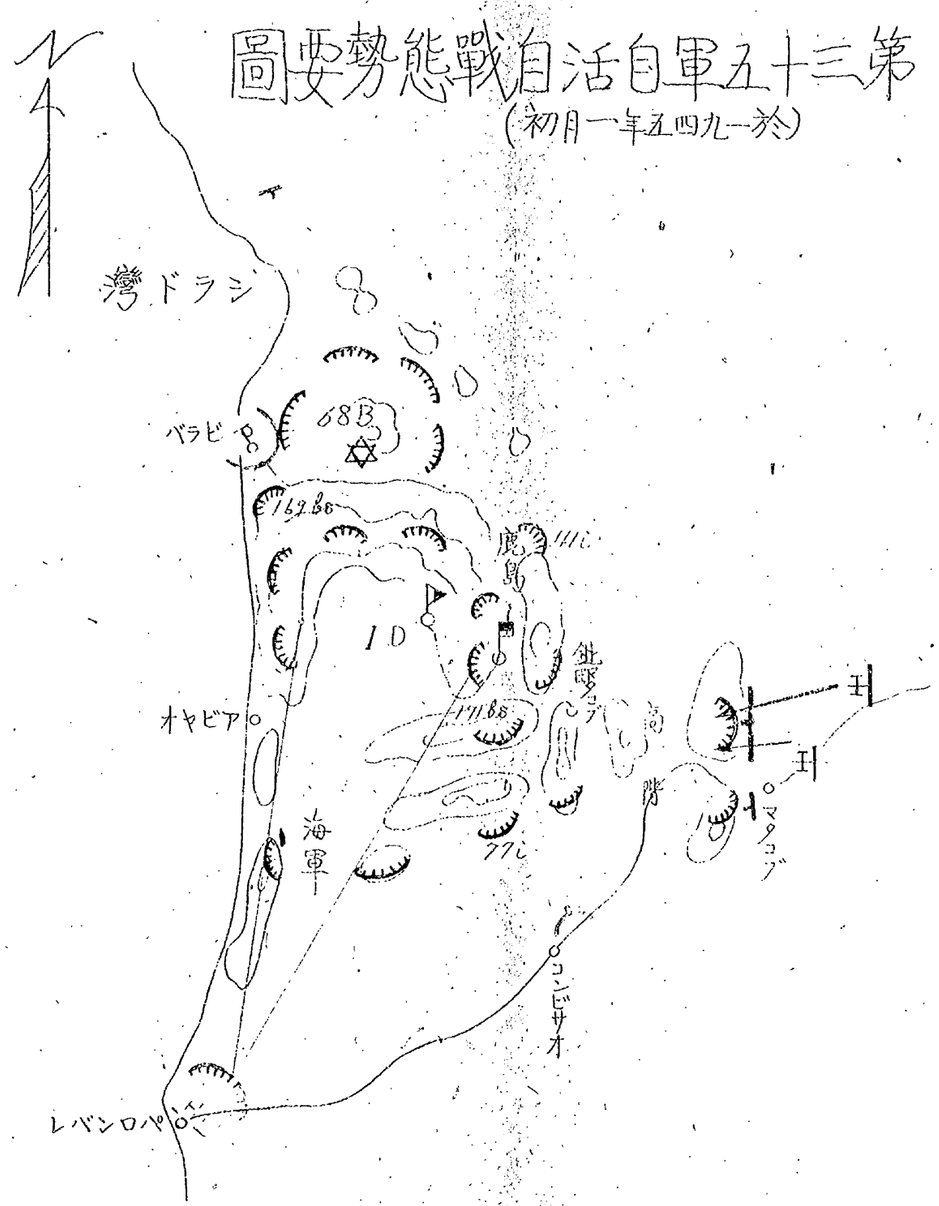
然るに事實は三月中旬に至るも尚米、玉蜀黍、甘藷等をも採集し得たり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三十五軍自活自戦態勢要圖

（初月一年五四九一於）

挿圖第十二



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3. 十二月下旬より一月上旬に於ける部隊の他の島への轉進

レイテ島より他の島への部隊の轉進に關しては後述するも一月初めに第百二師團司令部をセブに又一月上旬第一師團をセブ島に轉進せしめたり

二 一月下旬より二月上旬に於ける狀況

第一師團のセブ島轉進に伴ひ歡喜峰附近の配備は挿圖第十三の如し

此の間米軍は一月下旬より二月初めに亘り我が自活圏内を討伐せり

其の詳細は後述す

四 二月下旬より三月中旬に於ける狀況

第二十六師團等の集結に伴ふ部隊の態勢は別紙挿圖第十四の如くにして此の時期に於ても米軍の比較的大規模の討伐を受けたり

五 三月下旬以下の狀況

第十六師團到著後の態勢は明瞭ならず

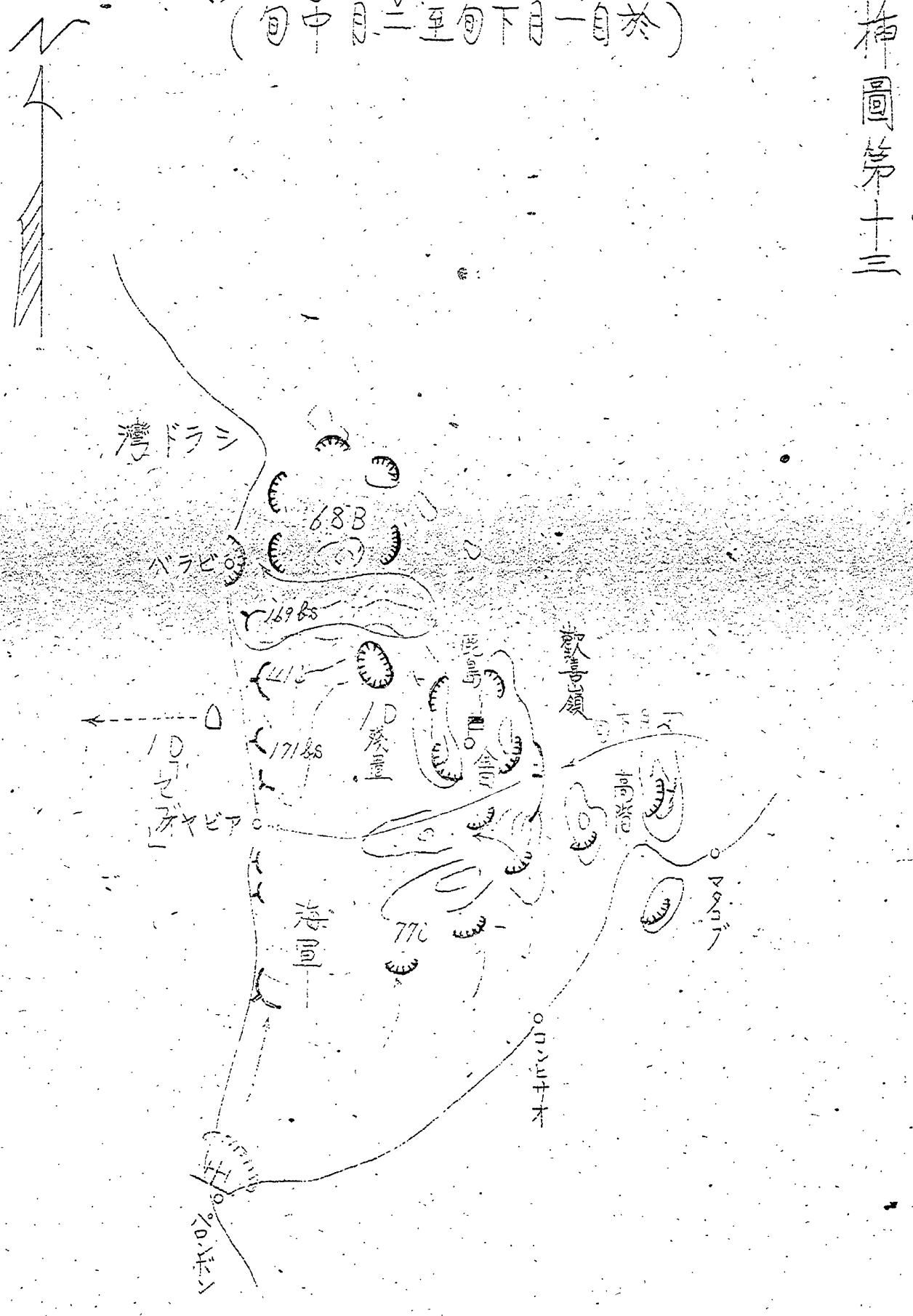
1545

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十三軍五自活戰態勢要圖

（自十月二至自十月一日於）

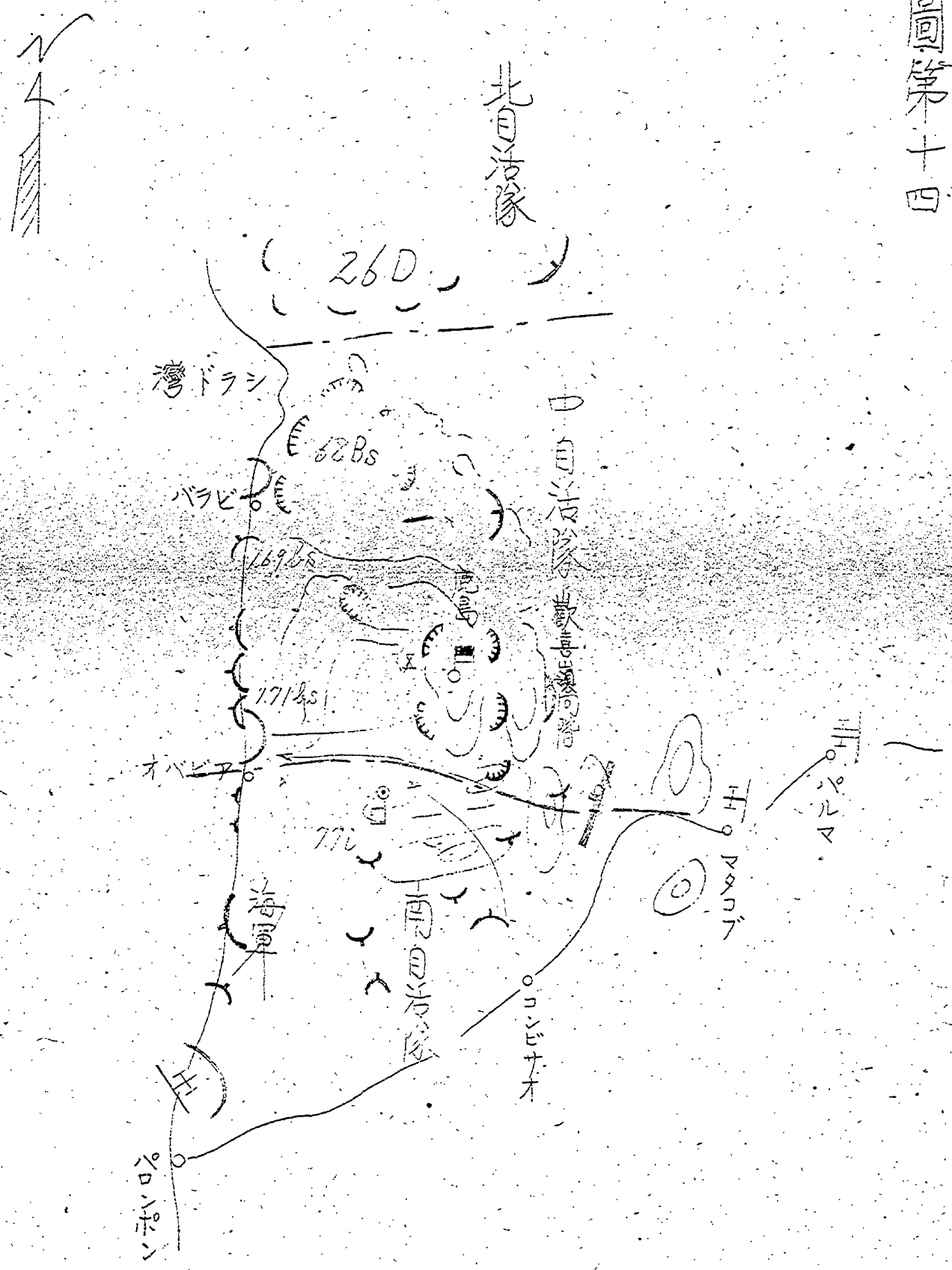
第十三圖


N
ドラシ湾
ベラビ
168B
169bs
171bs
10
ゼ
ヤビア
10
ラ
ン
ガ
ン
ス
ン
ガ
ン
ス
ン
ガ
ン
ス

第三十五軍自活自戰態勢要圖

（旬中月三至旬下月二日於）

挿圖第十四



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二款　自活實施の狀況

一、自活の方法

軍の計畫せる自活の方法左の如し

イ、我が作戰基盤内の現地物資を利用すると共に甘藷、玉蜀黍等を栽培するに努む

ロ、作戰基盤外の敵地區に在る糧秣を收買す

右の如き計畫の下に實施せるもイは之が實施に努力し相當成果を擧げたるも新に耕作して生産するは米軍の砲、爆撃或は討伐に因り妨害せられて之亦意の如くならず、結局ロの方法を採るより外に手段なく之れも敵の爲に妨害せられたるも或程度敵の警戒網を潜入して相當の成果を擧げたり

二、物資收藏及軍隊生存の狀況

一月中住民の收獲終了の時期にして相當の貯藏ありしを以て之を利用し又甘藷、芋等は之が保護栽培に依つて相當の量を收め又鹽は海

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

水を利用し製鹽せる等三月中旬の狀況に於ては軍隊の戰鬪力を向上し得るの程度には至らざりしも餓死を生ずるには至らず部隊に依りては二ー三ヶ月分の貯藏をも有するに至れり

野菜等は甘藷の葉を主としゼンマイ、トケイ草、山ホウレン草等を以て自足せり

第三款　我が作戰基盤に對する米軍の攻擊

我が作戰基盤に對する米軍の攻擊は一月下旬に約十日間、二月下旬より三月上旬に亘り約半ヶ月の二回實施せられたり其の目的とする所は我が方を食糧難に陷らしむるを主とせる如く陸上及海上の封鎖を實施し我が地域内に大風一過的の討伐を實施せり

一、一月下旬に於ける討伐の狀況

一月下旬米軍は歡喜嶺東南にある我が高階支隊及金田部隊に對し東方より之を攻擊し之を突破せる約一ヶ大隊の米軍は軍司令部南側を通過して所在の民家を焼き拂ひアビヤオ海岸に進出し二月一日乘船

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

してオルモック方面に撤退せり

又同時にビラバの敵兵増加して其の東南方に進出し一時は軍司令部を南北より挾撃する如き態勢にありしが二月一日反轉してビラバに引揚げたり

其の後當分は討伐もなく砲撃も減少せり

二、二月下旬の討伐の狀況

本討伐は相當に執拗に行はれたり

高階支隊及南自活隊を攻撃して浸透せる米軍は軍司令部南方千米の稜線を五、六日間占據し又アピヤオに新に約三百名の兵を配置し之を根據として毎日附近の掃蕩を實施し且ビラバの敵は第六十八旅團を攻撃し同旅團は相當の損害を受けるに至り軍司令部も二度攻撃を受け近接戦闘をも實施するに至れり

一月下旬の燒却を免れたる民家も此の度の討伐に依り殆んど全部米軍に燒却せられたり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米軍の海上及陸上よりする封鎖

封鎖は嚴重に行はれたり

海上に於ては日中は大發動艇、魚雷艇の如きを以て殆んど絶間なく往復し又別にパンカーを以て監視せり夜は魚雷艇を以て定期的に巡航警戒するを以て之を潛行するは容易ならざりき

陸上に於ては約四百米置きに歩哨を配置して監視し之れ亦此の間を潛行するは容易ならざりき

米軍の攻撃、封鎖に對する反撃

我が軍は機に乘じビラバ、アビヤオの敵を積極的に攻撃せしも遂に之を撃攘するに至らずバルマ或はバロンボンに在る敵砲兵に對しては斬込を實施して其の火砲數門を破壞し或は營地輜重等を急襲し若干の糧秣を獲得せり

敵は毎夜砲撃を實施し爲に若干の死傷者及病人を生ずるに至りたる

食糧品の缺乏の爲に治療困難の狀態に在り

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米軍の砲兵はマタコブ、パルマに約十二門、バロンボンに約四門ビラバに約四門在りたる如し

第四款　三月以降に於ける自活自戦の推移

三月中旬軍司令官のレイテ島より轉進後に於ては第十六師團長の指揮の下に豫定計畫に基き三月下旬作戦基盤を歓喜峰附近より北方のシラド灣東北地區（北自活隊の東北側地區）に移したる如く其の移轉の直後に米軍の大討伐を受け又四月にはB24等の爆撃を受け損害も極めて大にして死傷約四千に及びたるか如し第十六師團長も亦之の際戦死せるものの如し

第十一節　レイテ作戦に於ける彼等兩軍の兵力

一、米軍に對する判断

レイテ作戦に參加せる米軍は明ならざるも概要左の如く判断せられたり

第六軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第十軍團　7D　24D

第二十四軍團　77D　32D　96D

騎兵第一師團

第十一空輸師團

計　七師團

米軍の損害は不明なるも約二萬と豫想せらる

二、日本軍の地上兵力（裝備不十分なる部隊多し）

第二十五軍　16D　並に　30D　102Dの一部

55BS　57BSの一部

第一師團

第二十六師團（一部缺）

第六十八旅團

第八師團の一部

海軍二ヶ聯隊

計　約七萬

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp